フェニックス連句会

作品集

無くてもあるもの

2021.10.16
PHOENIX

▲山幸彦の座　二十韻「十三夜」の巻　杉本　聰　捌　3
▲海幸彦の座　二十韻「穐田や」の巻　吉田　酔山　捌　4
▲豊玉姫の座　二十韻「山に音」の巻　鈴木　了斎　捌　5
▲伊邪那岐の座　胡蝶「稲雲の」の巻　村松　定史　捌　6
▲伊邪那美の座　短歌行「小紫」の巻　澁谷　盛興　捌　7
▲天照の座　酒恋尽し下二字縛り
表合せ十句「秋の宿」の巻　高尾秀四郎　捌　8
半歌仙「神話の国」の巻　高尾秀四郎　捌　8
▲月読の座　二十韻「こども泣く」の巻　近藤　蕉肝　捌　9
▲須佐男の座　二十韻「秋深し」の巻　本屋　良子　捌　10

山幸彦の座

二十韻「十三夜」の巻

杉本　聰　捌

織きより夜毎に観たり十三夜　杉本　聰
　ひよんの実を吹く風人は誰　大月　西女
秋蝶の音楽室にやつてきて　日比谷虚俊
　集中力のすぐに欠ける子　鈴木千恵子

ウ

秘密基地自分ひとりの別天地　佐藤　森恵
　妖しい雑誌床に散らばる　千
寡夫なれば何の遠慮がいるものか　西
　碓氷峠を飛ばすナナハン　虚
ごみ鯰ときをり世間窺ひて　西
　あつぱつぱからひよつこりと顔　千

ナオ

斗酒酌めばおのづと軽き口となり　西
　国産み談義意見百出　森
無くなつた釣針を得て妻も得て　千
　新婚旅行ボーナスで行く　虚
波凍つるモンサンミシェルに月仰ぐ　千
　歩哨の眼にて遠く見つめる　森

ナウ

ひもすがら草しやりしやりと岬馬　西
　春の炬燵の上にジオラマ　虚
狂詩曲聴きつつ愛づる飛花落花　聰
　母が自慢の木の芽和食ぶ　森

令和三年十月十六日　首尾

リモート連句

歴史的仮名遣ひ

海幸彦の座

二十韻「穆田や」の巻

吉田　酔山　捌

穆田や鎮守孤島の如くあり　吉田　酔山
旧街道に色変えぬ松　小野　雅子
月明り鯊釣りの魚籠片付けて　木村　ふう
ジャズのリズムに乗つて宴会　山中　土筆

ウ

人の絶え新宿駅に鳥千羽　武川　佑
明日なにすると君にメールし　仝
いとほしく想ふ心に翅生えて　雅
空にまあるく指で絵を描く　筆
棟梁はおがくずのなか三尺寝　ふ
豌豆飯の匂ひ満つ卓　佑

ナオ

密避けて疫病の危機乗り越えん　ふ
太平洋をひとり横断　雅
氷山と闘ふ夫に胸キュンし　筆
抱けば溶ける雪女かも　雅
ぽつと出るカスタード色冬の月　佑
翔平くんのホームラン待ち　筆

ナウ

祝杯の地酒菰樽運び込み　ふ
引つ越しさきに通ひ猫来る　佑
ぼんぼりに舞ふ花びらの見え隠れ　筆
子らがはしやげば揺るる陽炎　雅

令和三年十月十六日　首尾

リモート連句

歴史的仮名遣ひ

豊玉姫の座

二十韻「山に音」の巻

鈴木　了斎　捌

山に音あり玄冬の遠からず　鈴木　了斎
　茜の残る空へ夕月　岡田　伊勢子
柚子切ればやはらかに鼻くすぐられ　木之下みなみ
　叱るとまたもうづくまる犬　もり　ともこ

ウ

小春日の古墳の話きりもなし　伊
　謎が謎呼び人が人呼ぶ　斎
いたいけな妹を鬼に掠はれて　と
　そつぽ向きたる頃を後悔　み
本当は好きですなどと夢に言ひ　斎
　コップの水の溢れ出したる　伊

ナオ

炎暑尽き背後に響くブラームス　み
　足下に寄る蚊を払ひかね　と
神仏を併せ祀れる海の民　伊
　まつろはぬものひそむ島影　斎
ほろ酔の二人今宵の月を浴び（おほもん）　と
　火の恋しくてくぐる大門　み

ナウ

思ひ出す林檎畑の故郷を　斎
　バックパッカー鳥籠を下げ　伊
漂泊も流離もならぬ花筏　み
　袖濡らしつつ吹く石鹸玉　と

令和三年十月十六日　首尾

リモート連句

歴史的仮名遣ひ

伊邪那岐の座

胡蝶「稲雲の」の巻

村松　定史　捌

稲雲の揺れて神顕れ十三夜　村松　定史
　秋の岬を裸馬駆け　杉山　豚望
威銃鳴るのを汐に席立ちて　米林　真
　折敷を運ぶ指図あれこれ　大久保風子
脱稿のエンターキーに深呼吸　仝
　利子の凍える複利計算　真

ウ

野良猫に物言うてをる漱石忌　豚望
　有髪の尼に客が途切れず　真
召し上がれプリンに添へて銀の匙　定史
　上目遣ひに誘ふ次の間　真
朝の別れ藤に飛び交ふ熊ん蜂　風子
　淡雪消ゆる地に落ちぬまに　豚望

ナオ

潮干狩り昨夜撒かれた貝探し　風子
　詐欺師は夢を売るとうそぶき　豚望
煩悩の犬にじり寄る男坂　真
　百合の花粉が取れぬ袖口　仝
求婚は涼しき月の観覧車　豚望
　ややこしきこと降嫁するとき　風子

ナウ

ギプスには友の落書あまたあり　豚望
　旅に決めたる鳥打帽子　仝
すみません今お客さま見えました　真
　獺の祭に酒も並べて　風子
初花に窯変著き美濃茶碗　定史
　赤子を抱きて春を惜しめる　豚望

令和三年十月十六日首尾
リモート連句
歴史的仮名遣ひ

伊邪那美の座

短歌行「小紫」の巻

澁谷　盛興　捌

受賞者の徳たたへてや小紫　澁谷　盛興
　自由が好きと揺るる蓑虫　南雲　玉江
雲間より月きらきらと農道に　園田　保博
　一息入れてドリップコーヒー　蛙女

ウ

難題のジグゾーパズル捗らず　玉江
　遠ざかり行く夜回りの柝　盛興
積み上げし白樺の榾芳しく　蛙女
　焦がれ待ちたるメール届きて　保博
夢にまで見しデートにはまだまだか　盛興
　貯金通帳記帳楽しみ　玉江
鷗啼くメーラレン湖の花筏　蛙女
　猫の仔戯れて呷る盃　保博

ナオ

春風にふはりふはりと寺の鐘　玉江
　プロムナードは競馬場跡　盛興
刺青の錨に惚れて子をなせる　蛙女
　濡れし後朝汽車に飛び乗り　保博
久々の有観客に沸くライブ　盛興
　汗ばむ竿に釣れるアマビエ　保博
熱帯夜三日月の先少し融け　玉江
　妣の得意な煮込み香れる　蛙女

ナウ

故郷の山の写真を切り抜きし　玉江
　騙し騙しの膝と右肩　蛙女
見遙かす都大路の花の幕　盛興
　丘晴れ上がり野遊びの声　保博

令和三年十月十六日　首尾

リモート連句

歴史的仮名遣ひ

天照の座

酒恋尽し下二字縛り
表合せ十句「秋の宿」の巻
高尾　秀四郎　捌

いざなぎといざなみのごと秋の宿　高尾秀四郎
やどろく好きなボジョレヌーボー　近藤　純子
茫然と月見る人の立ち飲みし　浅岡　照夫
見知らぬ土地に拾う初恋　渡辺　柚
鯉こくに電子レンジで酒の燗　平林　香織
完成間近君のセーター　柚
他愛ないおしゃべりつきる冬の閨　織
寝屋川の岸並ぶ蔵元　照
もともとの私になりて嫁ぎ行く　純
ゆくらゆくらとほろ酔いの道　織

令和三年十月十六日　首尾
リモート連句
現代仮名遣い

半歌仙「神話の国」の巻　高尾秀四郎　捌

集いきし神話の国の山装う　高尾秀四郎
つづく単線月を待つ人　近藤　純子
そぞろ寒推理小説読み終えて　浅岡　照夫
次から次にメール返信　平林　香織
矢車のくるくる風に威勢よく　渡辺　柚
故郷へ誘う道おしえいる　照

ウ

総ラメのサマードレスを新調し　織
真空パックにつめた札束　柚
石油王第五夫人とチャーター機　織
ラブストーリー先走り過ぎ　純
求婚の誕生石の柘榴石　照
耐用年数見直しの頃　柚
月凍るY字路ばかり描く画家　織
モルト求めて海は大北風　純
首傾げ御堂の奥に仏笑む　照
定年延長春の内示で　織
花に酔う片岸千本隅田川　秀
四冠狙う棋士に初虹　柚

令和三年十月十六日　首尾
リモート連句
現代仮名遣い

月読の座

二十韻「こども泣く」の巻

近藤　蕉肝　捌

町内にこども泣くなり秋深し　近藤　蕉肝
　とってちょうだい月と栗の実　坂根　慶子
美術展上下左右も奔放に　山中たけを
　カメラの画素は一億を超え　若月　香子

ウ

指の先ぷんと飛び立つてんとむし　松本奈里子
　サマードレスは風に膨れて　たけを
新入りの侍女を離宮に招き入れ　蕉肝
　カッサンドラ＊の虚し恋占　慶子
骨董の真価を見抜く仕事柄　たけを
　プラシーボでも飲んでみなさい　慶子

ナオ

神棚の酒をこっそり燗にして　たけを
　雪隠詰めが得意技なり　慶子
遠隔で故人に語る墓参　香子
　思い出せない覚め際の夢　奈里子
はんざきの月と連れ立つ都井岬　仝
　防空壕で抱きしめた肩　慶子

ナウ

意味を知る頃には消えたとこしなえ　たけを
　蒼穹無辺山鳥の歌　奈里子
花明り連なる路地に導かれ　香子
　家族集いて弥生狂言　慶子

令和三年十月十六日　首尾

リモート連句

現代仮名遣い

＊カッサンドラ：ホメロスの出てくるトロイの王女。神により預言能力を与えられたが、一方人に信用されないと言う皮肉な運命を持つ悲劇の人物。

須佐男の座

二十韻「秋深し」の巻

本屋　良子　捌

秋深し鵜戸神宮の亀の岩　本屋　良子
　波に揺られて昇りくる月　五郎丸照子
村芝居大入り札を掛けるらん　櫻井しのぶ
　故郷まではざつと二時間　石川　桃瑪

ウ

ロケットで宇宙遊泳試みて　岡本　遊凪
　行つてくるよと軽くハグする　照
惚れたふり薩摩焼酎注ぎながら　瑪
　身に馴染ませる浴衣藍染　ぶ
島主の楠の大木手を拡げ　凪
　名ある歌人のあてどなき旅　瑪

ナオ

トコトコテン太鼓叩いて猿廻し　凪
　乱高下するビットコインよ　ぶ
素うどんに髭の幽霊付き合うて　照
　娘の肩で眠る爺様　凪
寒月に女杜氏の嫁ぐ蔵　瑪
　ジャンプスキーの反り返る板　ぶ

ナウ

イヤホーン付けて選手のリズミカル　照
　色とりどりの雛あられ食べ　ぶ
山桜花盗人をとがめざる　良
　紋白蝶に風そよぐ畑　瑪

令和三年十月十六日　首尾

リモート連句

歴史的仮名遣ひ

フェニックス連句会
日本連句協会後援

あとがき

国文祭宮崎２０２０は、コロナ禍のために一旦２０２１年に延期されたものの、結局市長判断で中止となりました。連句会で県外から人が集まることで感染が懸念されたためでした。並行して準備していたリモート連句は、代替として行っても差し支えないと思われたのですが、それも併せて中止となりました。国文祭は行政主導で行われるものですから、止むを得ない判断であったと思われます。

連句人の間では数年前からリモート連句が行われていましたが、それがコロナ禍によっていよいよ現実的になりました。２０１９年春よりリモートへの切り替えが急速に進み、２０２０年にはズーム連句の試みが始まりました。リアルの方が良いという意見もある中で、ズーム連句会の試行が繰り返されました。そのような時期に国文祭宮崎の延期が決まりました。芭蕉の「俳諧は無くてもあるものだ」という言葉がひらめきました。万が一リアル連句会が無くなっても、ズーム連句会はあり得るということです。

国文祭宮崎で準備していたリモート連句が中止になった時、平林香織さん、五郎丸照子さん、靜壽美子さんがズーム連句をやろうと声をかけてくださいました。山中たけをさんが技術支援を引き受けられました。高尾秀四郎さんが日本連句協会の後援を了承されました。かくして多くの連句人のご協力を得てフェニックス連句会が実現いたしました。

ご協力賜りました方々に改めて感謝申し上げますとともに、日本連句協会の弥栄を心より祈念申し上げます。

近藤蕉肝
国文祭宮崎準備担当
２０２１年12月21日

無くてもあるもの
フェニックス連句会作品集
ズーム連句

発行　2021 年 12 月 23 日
発表日本連句協会公式ウェブサイト
呼びかけ人　近藤蕉肝
助け人　靜壽美子、平林香織
五郎丸照子、山中たけを
技術　山中たけを
代表　一般社団法人日本連句協会
後援　近藤蕉肝
email　stkondo575@royal.ocn.ne.jp

© なし